

平成19年度事業報告書

社団法人瀬戸内海環境保全協会

I 一般事項

1. 会議等の開催

(1) 通常総会（平成19年5月22日 ラッセホール）

① 受賞者表彰（瀬戸内海環境保全月間ポスター公募最優秀賞等）

最優秀賞（環境大臣賞）

双田 泰子 鹿児島県 主婦

優秀賞（瀬戸内海環境保全協会会長賞）

子供部門 柏谷浩平 徳島県 鴨島小学校4年生

一般部門 坂上大介 大阪府 自営業

② 総会議事

- ・平成18年度事業報告及び収支決算
- ・平成19年度会費
- ・平成19年度事業計画及び収支予算
- ・国に対する要望
- ・役員改選

③ 特別講演会

講演：朝鮮通信使400年と瀬戸内海

講師：岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 倉地 克直

(2) 理事会

① 第82回理事会（平成19年5月15日 兵庫県民会館）

- ・専門委員会委員の委嘱
- ・顧問の委嘱
- ・通常総会付議事項

② 第83回理事会（平成20年3月10日 ラッセホール）

- ・職員給与規則の一部改正
- ・平成19年度収支予算の補正
- ・平成19年度事業実施状況
- ・平成20年度事業計画案及び収支予算案

(3) 専門委員会等

① 企画委員会

ア 第81回企画委員会（平成19年8月2日 兵庫県民会館）

- ・平成19年度事業について

- ・瀬戸内海再生法に関する取り組みの進捗状況について
 - ・環境省からの受託事業について
 - ・「K J B瀬戸内基金」（フィリップ モリス ジャパン(株)）について
 - ・兵庫県工業用水協会からの寄付金について
- イ 第82回企画委員会（平成20年1月16日 ラッセホール）
- ・平成19年度事業実施状況について
 - ・平成20年度事業計画（案）について

②調査委員会（平成20年2月8日 北九州国際会議場）

- ・平成19年度底質サンプル評価方法検討調査について

③編集委員会

ア 第1回編集委員会（平成19年7月26日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第50号について
- ・協会総合誌「瀬戸内海」第51～53号の原稿収集について

イ 第2回編集委員会（平成20年1月22日 兵庫県民会館）

- ・協会総合誌「瀬戸内海」第52号について
- ・協会総合誌「瀬戸内海」第53～55号の原稿収集について

④賛助会員事業部会（平成19年8月21日 兵庫県民会館）

- ・平成19年度賛助会員に関する事業計画について

事業部会：関西電力(株)、川崎重工業(株)、(株)神戸製鋼所、マツダ(株)、四国電力(株)
総合科学(株)、山口県瀬戸内海環境保全協会

(4)参事・事務局長並びに担当課長会議（平成20年3月12日 全日空ホテルクレメント高松）

- ・平成19年度事業実施状況及び平成19年度収支補正予算について
- ・平成20年度事業計画（案）及び平成20年度収支予算（案）について
- ・会員相互の情報交換

2. 専門委員の委嘱

企画委員、調査委員、編集委員を委嘱した。

(1)企画委員（13名）

| | |
|--------|-----------------------|
| 葉山 幸雄 | 大阪府環境農林水産部環境管理室環境保全課長 |
| 勝野 聡一郎 | 兵庫県健康生活部環境管理局水質課長 |
| 堤 洋介 | 広島県環境部環境対策局環境調整室長 |
| 大森 利春 | 香川県環境森林部次長兼環境管理課長 |
| 野田 修一郎 | 大分県生活環境部環境保全課長 |
| 鈴木 崇 | 大阪市環境局環境保全部土壌水質担当課長 |
| 菅原 通直 | 神戸市環境局主幹（水環境保全担当課長） |
| 久田 隆義 | 奈良市企画部参事（環境保全課長事務取扱） |
| 祢屋 純男 | 倉敷市市民環境局環境部環境政策課長 |

| | |
|-------|--------------------------|
| 森友 信 | 山口県漁業協同組合常務理事 |
| 宮本 寿 | 愛媛県漁業協同組合連合会専務理事 |
| 岡崎 進 | (社)大阪エフボ®ランタリーネットワーク事務局長 |
| 岡本 利貴 | (財)広島県環境保健協会理事 |

(2)調査委員（11名）

| | |
|-------|----------------------|
| 吉田 敏臣 | 大阪府環境農林水産総合研究所所長 |
| 山村 博平 | 兵庫県立健康環境科学研究所センター所長 |
| 大橋 友紀 | 和歌山県環境衛生研究センター所長 |
| 小倉 肇 | 岡山県環境保健センター所長 |
| 田口 哲 | 広島県立総合技術研究所保健環境センター長 |
| 調 恒明 | 山口県環境保健センター所長 |
| 瀬尾 裕信 | 徳島県保健環境センター所長 |
| 田川 和人 | 香川県環境保健研究センター所長 |
| 井上 博雄 | 愛媛県立衛生環境研究所所長 |
| 吉村 健清 | 福岡県保健環境研究所所長 |
| 梅田 和秀 | 大分県衛生環境研究センター所長 |

(3)編集委員（16名）

| | |
|--------|---------------------------------|
| 石野 哲 | いであ（株）環境コンサルタント統括事業本部環境技術本部副本部長 |
| 英保 次郎 | 兵庫県立健康環境科学研究所センター水質環境部長 |
| 大森 利春 | 香川県環境森林部次長兼環境管理課長 |
| 勝野 聡一郎 | 兵庫県健康生活部環境管理局水質課長 |
| 北村 弘行 | 元（社）瀬戸内海環境保全協会参与 |
| 薦田 直紀 | (財)広島県環境保健協会地域・総務センター長 |
| 篠原 靖 | 関西電力（株）環境室環境技術グループマネージャー |
| 正賀 充 | 環境省水・大気環境局閉鎖性海域対策室室長補佐 |
| 竹内 正道 | (株)神戸製鋼所環境防災部副部長 |
| 西田 正憲 | 奈良県立大学地域創造学部教授 |
| 橋詰 博樹 | (財)地球環境戦略研究機関APNセンター長 |
| 久野 武 | 関西学院大学総合政策学部教授 |
| 藤井 正美 | 元神戸学院大学薬学部教授 |
| 眞鍋 武彦 | (財)国際エメックスセンター技術アドバイザー |
| 湯浅 一郎 | (独)産業技術総合研究所沿岸海洋研究グループ長 |
| 鷺尾 圭司 | 京都精華大学人文学部教授 |

3. 事務局職員等（20.3.31 現在）

| | |
|------|-------|
| 常務理事 | 中嶋 國勝 |
|------|-------|

| | |
|-----------|------------------------|
| 顧問 | 櫻井 正昭（（財）自然公園財団専務理事） |
| 顧問 | 小林 悦夫（（財）ひょうご環境創造協会顧問） |
| 事務局長 | （中嶋常務理事兼務） |
| 総務課長兼業務課長 | 旗谷 和行（兵庫県からの出向） |
| 課長補佐 | 奥村 誠崇（いであ㈱からの出向） |
| 主査 | 中井 純子 |
| 主査 | 守安 雅代 |
| 嘱託 | 山本 千弘 |

II 事業

1. 普及活動及び活動支援事業

(1) 平成19年度(第35回)瀬戸内海環境保全月間事業の展開（期間：19年6月1日～6月30日）

瀬戸内海関係地域住民並びに関係者に対して、広域的な瀬戸内海環境保全意識の高揚を図るため、会員並びに関係諸団体の協力を得て、広く公募した作品によりポスターを作成し配布をした。

- ・平成19年度瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募最優秀作品

双田泰子さん（鹿児島県）の作品

(2) 平成20年度(第36回)瀬戸内海環境保全月間ポスターの公募（期間：19年7月17日～11月30日）

20年度瀬戸内海環境保全月間に向けて、環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携してポスターの原画を募集した。

ポスター選定委員会の開催（平成20年3月6日 IHDセンター）

応募数 子供部門：114

一般部門：214 総数：328

(3) 瀬戸内海環境保全普及活動推進事業の実施

① 瀬戸内海環境保全セミナーの開催

環境保全活動を推進するため、環境保全意識の高揚及び人材育成、情報発信等を目的として瀬戸内海環境保全セミナー（近畿ブロック）を開催した。

日時：平成20年2月29日

場所：ラッセホール（神戸市）

テーマ：「森・川・里・海」流域間連携と総合的管理

参加人数：110名

② 瀬戸内海環境保全トレーニングプログラムの実施

新たに瀬戸内海の環境保全のための業務に従事することとなった会員団体職員を対象に研修会を開催した。

日時：平成19年10月30日～11月1日

場所：ホテル北野プラザ六甲荘（神戸市）

講義：瀬戸内海の環境保全の歩みと再生方策

講師 広島大学名誉教授 松田 治

瀬戸内海沿岸海域での諸問題

講師 関西学院大学総合政策学部教授 久野 武

瀬戸内海を取り巻く課題（法律を中心に）

講師 環境省水・大気環境局水環境課閉鎖性海域対策室主査 篠田 宗純

瀬戸内海の風景とツーリズム

講師 奈良県立大学地域創造学部教授 西田 正憲

里海学ー太く、長く、滑らかな物質循環ー

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

現地研修

廃棄物広域処理事業（大阪湾フェニックス事業の講義、神戸沖埋立処分場他）

大阪湾広域臨海環境整備センター

班別討議・全体討議

参加人数：22名

③里海創生に係る基礎調査

閉鎖性海域の保全については、著しい汚濁は改善されたものの、水産資源を含む生態系の劣化が進んでいるため、21世紀環境立国戦略（平成19年6月）では、藻場・干潟の保全・再生・創出、水質汚濁対策、持続的な資源管理等を総合的に推進することにより、多様な魚介類等が生息する自然の恵み豊かな「里海」の創生が、今後1、2年で重点的に着手すべき環境政策として明記されている。豊かな生態系を持ち生産性が高い「里海」の概念を理論として確立し、実践するための方策検討の基礎とするため、「里海創生検討会」を開催して本調査を実施した。

第1回里海創生検討会（平成19年11月5日 東京国際フォーラム）

第2回里海創生検討会（平成20年1月7日 東京国際フォーラム）

第3回里海創生検討会（平成20年3月4日 東海大学校友会館）

「里海創生検討会」委員

独立行政法人国立環境研究所水圏環境研究領域長 木幡 邦男

大阪芸術大学芸術学部教授 ハーヴィ・シャピロ

東北工業大学客員教授 須藤 隆一（委員長）

広島大学名誉教授 松田 治

九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

京都精華大学人文学部教授 鷺尾 圭司

(4)平成19年度瀬戸内海の環境保全に関する衛生団体合同研修会の開催

主催：瀬戸内海環境保全地区組織会議／(財)福岡県地区衛生連合会／(社)瀬戸内海環境保全協会

日時：平成19年11月8日～9日

場所：博多サンヒルズホテル（福岡市）

基調講演：“里海”づくり～住民参加と環境教育を中心に～

講師 九州大学応用力学研究所教授 柳 哲雄

体験交流・意見交流：各府県市連合会の実践活動報告

事例紹介等：①瀬戸内海の環境保全と地球温暖化防止に向けた実践事例

②瀬戸内海の環境保全～瀬戸内海環境保全協会の事業概要～

参加人数：117名

(5) 賛助会員による瀬戸内海環境保全事業の展開

①平成19年度瀬戸内海環境保全月間行事（期間：19年6月1日～6月30日）への積極的参加

・月間ポスター等の提示による普及啓発活動の実施

・月間中の環境行事の実施及び取りまとめ

②平成20年度瀬戸内海環境保全月間ポスター公募への協力

③総合誌「瀬戸内海」の配布と投稿

④瀬戸内海環境保全研修会（瀬戸内海環境保全セミナーと併せ）の開催

日時：平成20年2月29日

場所：ラッセホール（神戸市）

テーマ：「森・川・里・海」流域間連携と総合的管理

参加人数：110名

(6) 瀬戸内海スナメリ発見情報プロジェクト実践事業の展開

沿岸域住民の瀬戸内海に対する理解や関心を深め、自主的な取り組みを推進するための契機となるよう平成11年度から実施しているスナメリ発見情報プロジェクトを引き続き展開するとともに、公募したスナメリのマスコットイラスト及び愛称「ほのぼのん」を広く活用し、瀬戸内海の環境保全活動を行っている。

(7) 瀬戸内海再生に向けた取組みの展開

瀬戸内海の生物多様性の確保、水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等の豊かで美しい瀬戸内海を取り戻すための施策の推進が総合的、計画的に図られるよう、瀬戸内海環境保全知事・市長会議等と連携して、次の取組みを進めた。

①瀬戸内海再生の啓発用リーフレット、パンフレット等の配布

②瀬戸内海の再生に向けた法整備のための署名活動の実施

1, 416, 618名

③国等への要望活動の実施

平成19年10月25日 国への特別要望

府県選出衆参国会議員 200名

関係省庁

269ヶ所

(8) 瀬戸内海における浜辺の自然・文化・歴史教室の開催

瀬戸内海の海岸で小・中学生とその親を対象に、その海岸の生物分布・特徴を調べると同時に、地域の持つ自然・文化・歴史特性を総合的に学び、瀬戸内海の環境保全の大切さを理解することを目的とした教室を開催した。

場所：丸山漁港（南あわじ市）、神戸大学内海域環境教育研究センター・マリンサイト（淡路市）

日時：平成19年8月6日

内容：①神戸大学内海域環境教育研究センターの川井浩史センター長等を講師に、採取した海藻の押し葉標本の作製

②淡路市立育波小学校海部伸雄校長の「瀬戸内海と淡路の歴史」の講話

参加者：44名

(9)環境保全活動テキストの発行

沿岸域の環境保全活動に資するため、瀬戸内海研究会が環境事業団地球環境基金（現：（独）環境再生保全機構地球環境基金）の助成を受けて編集・作成した環境保全活動テキスト「瀬戸内海とわたしたち一森～川～海からひと・くらし・いきものを考えよう」を協会に改訂印刷、発行した。

(10)各種環境保全事業への参加・協力

①環境イベントへの参加・協力

第五管区海上保安本部が中心となって実施している大阪湾クリーン作戦（期間：19年6月1日～6月30日）に協力し、ポスターの配布、ごみの回収等を行った。

②会員等主催事業の支援

漂着ごみ対策フォーラム（平成20年2月24日）の共催やパネルの貸し出しなど、瀬戸内海の環境保全の普及・広報活動に資するため、会員等が主催する各種環境保全事業の支援を行った。

③環境NGO/NPOとの連携・支援

大阪湾見守りネットが実施した「第4回ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」に協力するなど、瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO/NPOとの連携・支援を行った。

(11)K J B瀬戸内基金の管理・運営

瀬戸内海の環境保全等に努める環境NGO/NPOを支援するため、フィリップ モリス ジャパン株式会社が提唱する「Keep Japan Beautiful～日本をエコひいきしよう～」の一環として、瀬戸内海地域における環境美化・保全活動に取り組む市民団体（NGO/NPO）等に対して、その活動や事業を助成・支援する目的を持って設立した「K J B（Keep Japan Beautiful）瀬戸内基金」の管理・運営業務を行った。

応募総数：30団体

採択総数：16団体

主な採択活動：海域及び河川の美化活動

(12)瀬戸内海事典の配布

瀬戸内海の各般にわたり幅広く収録された「瀬戸内海事典（南々社）」が平成19年11月に発刊された。当協会と関係のある研究者が多数執筆していること、会員の環境保全事業の推進に参考となることから、一括購入のうえ配布した。

なお、兵庫県工業用水協会からの寄付金を事典の購入費用に充当した。

・配布日：平成20年1月9日

・配布先：会員団体

2. 指導・助成

各種環境保全活動事業に対する助成

漁業団体（7団体）、環境衛生団体（8団体）が実施する各種環境保全活動事業に対しその活動費用の一部を助成した。

3. 情報収集・発信事業

(1) 瀬戸内海研究・環境等情報ネットワークシステム（「せとうちネット」）の管理・運営

瀬戸内海に関する水質等環境情報や社会経済、文化・歴史等情報、各種調査研究成果等多様な情報の提供を目的として平成10年度に構築した「せとうちネット」の的確な管理・運営に努めるとともに、環境省の委託等により情報収集を行ない、データの追加・更新を行っている。

(2) 総合誌「瀬戸内海」の発行及び配布

瀬戸内海の自然・社会・人文科学の総合誌「瀬戸内海」を次のとおり発行・配布。

なお、第50号から内容及び表紙をリニューアルしている。

・発行回数：年4回

・平成19年 6月 第50号

・平成19年 9月 第51号

・平成20年 1月 第52号

・平成20年 3月 第53号

(3) 資料集「瀬戸内海の環境保全—平成19年度版—」の発行及び配布

瀬戸内海に関連する各種資料をとりまとめ、収録した資料集「瀬戸内海の環境保全—平成19年度版—」を発行・配布。

(4) 協会ホームページの充実

当協会の活動紹介及び環境情報等の発信に努めた。

また、瀬戸内海の再生に向けた法整備のためのインターネット署名を実施した。（実施期間：19年2月26日～8月17日）

4. 調査・研究事業

(1) 平成19年度底質サンプル評価方法検討調査（環境省より請負）

水質総量規制等による汚濁負荷量の削減により一定の水質の改善が見られるものの、未だに赤潮や貧酸素水塊の発生が見られる。このため、瀬戸内海において目標とすべき水質の検討及び水質汚濁メカニズムの解明により、今後の効果的な対策を検討する必要がある。これまでに実施してきた瀬戸内海環境情報基本調査で採取し、各環境研究機関で分担・保管している底泥試料（サンプルバンク試料）は、過去からの環境の変遷を知る上で貴重な試料である。これらの試料を分析することにより、瀬戸内海における底質環境の変化や有機汚濁物質と生物生息環境の長期的変化とその要因

等を把握するため、播磨灘を対象として調査を実施し、瀬戸内海における新たな環境保全・再生のあり方の検討を行っている。

検討作業会（ワーキンググループ）：（委員長：塩沢孝之前広島県産業科学技術研究所副所長）

開催日：第1回 平成19年10月15日

第2回 平成20年1月23日

第3回 平成20年3月14日

(2) 海洋ごみ対策の確立に向けた情報支援システムの構築に関する研究

（独立行政法人産業技術総合研究所より受託）

海岸漂着ごみによる景観の劣化、プラスチックごみの破片化による海洋汚染、生態系への悪影響等、海洋ごみ問題は深刻な状況にあり、早急に取り組むべき環境問題である。このため、環境省の地球環境保全等試験研究費を受けて、漂流・漂着数値モデルの構築・実験、GISによる空間解析によるごみの動態と総量把握、漂着・浮遊ごみのモニタリング調査、既存資料・情報の収集を行うなど、瀬戸内海での海洋ごみ対策の確立に向けて、（独）産業技術総合研究所、鹿児島大学、いであ（株）と引き続き共同研究（平成18～20年度）を行っている。

当協会では、瀬戸内海各地域における海洋ごみ対策事例の収集・整理、漂着ごみのモニタリング調査を実施している。

5. 瀬戸内海研究会議に対する支援・協力

瀬戸内海研究会議の事務局を担うとともに、研究会議が行う事業の運営推進を支援し、協力している。

(1) 瀬戸内海研究会議事務局

瀬戸内海研究会議の事務局として、円滑な事務運営と会員との連絡調整を行うとともに、事業を適切、効率的に遂行した。

(2) 「瀬戸内海研究フォーラムin香川」及びワークショップの開催等に対する支援・協力を行った。

瀬戸内海研究会議が開催する「瀬戸内海研究フォーラムin香川」の開催等に対し、支援・協力を行った。

① 「瀬戸内海研究フォーラムin香川」

テーマ：豊かな海と島づくりー里海を守り育てる人と法ー

日 時：平成19年9月6日～7日

場 所：香川県高松市サンポートホール高松

参加者：延べ450名

② 「瀬戸内海研究会議ワークショップ」

テーマ：瀬戸内海の環境保全・創造研究ワークショップ

日 時：平成19年11月27日

場 所：兵庫県民会館

参加者：73名

6. 国際的な活動への参加と協力

(財) 国際エメックスセンターが行う国際的な行事に対して参加・協力を行っている。

7. その他関連事業

(1) 国に対する要望

協会が実施する事業及び調査研究の拡充強化並びに本協会の運営への配慮等について国に要望した。

- 要望事項： 1. 瀬戸内海環境保全のための普及活動、環境教育事業及び参加型環境保全活動事業の推進
2. 瀬戸内海の環境データの収集とデータベース機能の充実
3. 瀬戸内海の沿岸域での良好な環境の保全、失われた環境の修復・創造に関する調査研究
4. 生物多様性の確保及び水産資源の回復、美しい自然とふれあう機会の提供等瀬戸内海再生に関する調査研究
5. 瀬戸内海の汚濁メカニズムの解明と富栄養化防止に関する調査研究
6. 瀬戸内海の自然環境及び水環境保全並びに浮遊・漂着・海底ごみ等に関する調査研究
7. 瀬戸内海の化学物質等による環境影響に関する調査研究
8. 各種開発事業等に係る環境影響評価及び環境管理技術に関する調査研究
9. 瀬戸内海研究会議の調査研究及び教育活動の拡充強化

要望日：平成19年7月31日

要望先：環境省、財務省、国土交通省、水産庁

(2) 瀬戸内海環境保全知事・市長会議との協調

瀬戸内海環境保全知事・市長会議と連携を密にし、協調して事業実施に当たった。

(3) 賛助会員の加入促進

協会の目的に賛同する企業等の賛助会員加入の促進に努めた。